

国立国会図書館オンラインの目次データを使用した資料の検索方法

阿部 幸江

Abstract : Outline of the 5 types of contents data which can be retrieved via the newly launched retrieval and application system “National Diet Library Online Search and Request Service (NDL Online)” is introduced : the contents information produced during the digitizing process, the article information of the online journals, the articles information included in the “article index of selected journals”, the contents information documented during the cataloging process and the contents database included in the online-reference site “Research Navi”. Next, the features of retrieval function and examples of the screen of each type are shown. Then practical key points in retrieving the contents information of books and periodicals are provided.

目次

I. はじめに	18
II. 国立国会図書館オンラインの目次データの概要	19
1. 概要	19
(1) デジタル化資料の目次データ	21
(2) 電子雑誌の記事	21
(3) 雑誌記事索引	21
(4) 内容細目	22
(5) 目次データベースの目次データ	22

2. 国立国会図書館オンラインの検索・表示対象	23
(1) 国立国会図書館オンラインの検索・表示対象	23
(2) 書誌詳細画面の構成	24
Ⅲ. 目次データの調べ方のポイントと表示画面	25
1. デジタル化資料の目次データ	25
(1) ポイント	25
(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法	28
2. 電子雑誌の記事	29
(1) ポイント	29
(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法	29
3. 雑誌記事索引	30
(1) ポイント	30
(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法	34
4. 内容細目	35
(1) ポイント	35
(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法	35
5. 目次データベースの目次データ	36
(1) ポイント	36
(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法	37
6. 画面遷移	38
(1) 図書（1冊ごとに書誌を作成した資料）	39
(2) 図書（複数巻を1つの書誌にまとめた資料）	39
(3) 雑誌	40
Ⅳ. 調べ方のポイント	48
1. 全般	48
2. 図書	50
3. 雑誌	50
(1) 概要	50
(2) ポイント	51
(3) 記事名から探す	51
(4) 検索結果一覧の見方とファセット検索	52
(5) 雑誌名から探す	56

(6) 目次データの比較	56
(7) 電子ジャーナルの場合	57
V. 国立国会図書館サーチとの違い	58
VI. おわりに	59

I. はじめに

国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（略称：国立国会図書館オンライン）¹は、国立国会図書館の所蔵資料及び国立国会図書館で利用可能なデジタルコンテンツを統合的に検索することができる。

国立国会図書館オンラインでは、従来の国立国会図書館蔵書検索・申込システム（略称：NDL-OPAC）に収録された雑誌記事索引や内容細目に加え、国立国会図書館デジタルコレクション（以下「デジコレ」）²に収録されたデジタル化資料の目次データ（以下「デジタル化資料の目次データ」）約214万件³と電子雑誌の記事約74万件⁴及びリサーチ・ナビ（当館の調べもの支援サイト）⁵の目次データベース⁶に収録された目次データ約9万件⁷を統合的に検索できるようにしたことにより、タイトルや著者名以外の情報から目的の資料にたどりつける可能性が高まった。

これらの豊富な目次データは、その情報源の違いにより内容、検索方法及び検索結果の表示方法が異なる。そこで本稿のII章からIII章は基礎知識編として、国立国会図書館オンライン収録の目次データの概要をまとめ、それらの種類ごとに、検索方法及び表示画面の見方のポイント及び画面遷移を紹介する。IV章は実践編として、国立国会図書館オンラインの目次データ等を活用して調べものをする場合のポイントを紹介する。既に国立国会図書館オンラインの画面構成を把握されている読者の方には、IV章から読んでいただい

1 国立国会図書館検索・申込オンラインサービス <https://ndlonline.ndl.go.jp/>

2 国立国会図書館デジタルコレクション（デジコレ） <http://dl.ndl.go.jp/>

3 当館所蔵資料をデジタル化した資料のうち、目次データのある資料の書誌件数である（平成29（2017）年10月17日現在）。

4 デジコレの「電子書籍・電子雑誌」の詳細検索で資料種別を「記事」に限定して検索した記事件数。記事があるのは電子雑誌のみである（平成29（2017）年12月6日現在）。

5 リサーチ・ナビ <https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/index.php>

6 目次データベース <http://rnavi.ndl.go.jp/mokuji/index.php>

7 目次データがある書誌件数・巻号件数の合計。雑誌などは巻号単位で目次データが作成されている（平成29（2017）年10月31日現在）。

でもよい。調べものや図書館におけるレファレンスで活用していただければ幸いである。以下に本稿における留意点を記載する。

- 本稿では、資料にある目次のページを「目次ページ」、目次ページに記載された内容を機械的に検索できるようにテキスト化した情報を「目次データ」と呼ぶ。
- 概念図は、データの構造を理解しやすくするために単純化しているため、必ずしも正確ではないことがある。また、全ての出現パターンについて網羅するものではない。
- 画面例は、読者の見やすさを考慮し、加工しているものがある。
- 目次データの説明は概要であり、例外がありうる。個別の資料を利用する場合は、国立国会図書館オンラインを検索し、デジタル化の有無、資料の状況等を必ず確認していただきたい。

Ⅱ. 国立国会図書館オンラインの目次データの概要

1. 概要

国立国会図書館オンラインには、3つのデータベースを出典とする5種類の目次データが収録されている。出典、目次データの種類、件数、検索するとき使用する入力欄、目次データが表示される画面について表1にまとめた。

表1 国立国会図書館オンライン収録の目次データ

出典	種類	件数（概数）	入力欄	表示画面
デジコレ	(1) デジタル化資料の目次データ	約 214万件 ⁸ 図書：約 77 万件、 雑誌：約 127 万件、 その他（官報・博士論文等）：約 10 万件	キーワード	図書：書誌詳細画面 雑誌：書誌詳細画面 （掲載巻号の書誌（巻号情報））
	(2) 電子雑誌の記事	約 74 万件	キーワード、 タイトル、 著者・編者	収録記事一覧： 書誌詳細画面（掲載巻号の書誌（巻号情報）） 記事：書誌詳細画面（記事書誌）
N D L B i b o	(3) 雑誌記事索引	約 2.3万タイトル 約 1,268万件 ¹⁰	キーワード、 タイトル、 著者・編者	収録記事一覧：書誌詳細画面（掲載巻号の書誌（巻号情報）） 雑誌記事索引：書誌詳細画面（記事書誌）
	(4) 内容細目	未算出 ¹¹	キーワード、 タイトル、 著者・編者 （一部）	書誌詳細画面
リサーチナビ	(5) 目次データベースの目次データ	約 9 万件	キーワード	書誌詳細画面

以下、目次データの種類ごとに、概要を記載する。

⁸ 当館所蔵資料をデジタル化した資料のうち、目次データのある資料の書誌件数である（平成29（2017）年10月17日現在）。

⁹ 国立国会図書館書誌提供サービス（略称：NDL-Bib）
<https://ndl-bib.ndl.go.jp/>

¹⁰ 記事件数はNDL-OPACの詳細検索画面で資料種別を「雑誌記事」に限定して検索し算出した（平成29（2017）年12月4日現在）。
採録誌総数は「雑誌記事索引採録誌一覧」（http://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/sakuin_index.html）による（平成29（2017）年11月24日現在）。

¹¹ 納本対象資料の範囲や各種資料群における書誌データ作成の基準や運用は時期によって異なるため、全体の件数や割合を示すのは困難である。納本制度については、「納本制度」（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/deposit/deposit.html>）も参照。

(1) デジタル化資料の目次データ

当館が所蔵資料をデジタル化した際に作成し、デジコレに収録した目次データである。デジコレに収録したデジタル化資料の件数は約 266 万件（図書約 97 万件、雑誌約 128 万件、その他約 41 万件）であるが、そのうち目次データが付与されている書誌の件数は、約 214 万件（図書約 77 万件、雑誌約 127 万件、その他（官報・博士論文等）約 10 万件）である（平成 29（2017）年 10 月 17 日現在）。

(2) 電子雑誌の記事

デジコレの電子書籍・電子雑誌の収録件数は約 102 万件だが、そのうち電子雑誌の記事約 74 万件が検索可能である。電子雑誌については当館がインターネット資料収集保存事業¹²及びオンライン資料収集制度（e デポ）¹³により収集したボーンデジタル資料（PDF ファイル等のデジタルデータで刊行された資料）であり、契約により当館が提供している電子ジャーナル¹⁴は含まない。

(3) 雑誌記事索引

雑誌記事索引とは、国立国会図書館が収集・整理した国内刊行和文雑誌（一部外国刊行和文雑誌・国内刊行欧文雑誌を含む。）から、固有の論題をもつ記事をデータベース化したものである。雑誌記事の論題名、著者等を検索語として、文献の掲載誌・掲載箇所を特定することができる。採録誌は「雑誌記事索引採録誌選定基準」¹⁵で定めており、当館が所蔵する全ての雑誌を採録対象としているわけではない。記事の採録基準は「雑誌記事索引記事採録基

¹² インターネット資料収集保存事業 <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/internet/index.html>

¹³ オンライン資料収集制度（e デポ） <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/online/index.html>

¹⁴ 当館で利用できる電子ジャーナル等 http://www.ndl.go.jp/jp/data/journal_list/index.html

¹⁵ 雑誌記事索引採録誌選定基準
http://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/sakuin_select.html#journal

準」¹⁶で定めている。記事件数は約 1,268 万件、採録誌総数は 23,493 タイトル（内、現在採録中 11,027 タイトル、廃刊・採録中止 12,466 タイトル）である。

（４）内容細目

内容細目は、論文集、短編集や全集等の資料を構成する個々の著作を列挙する注記で、主にタイトルと著者を記載したものである。雑誌や新聞等の逐次刊行物以外の、和図書・国内刊行洋図書・パッケージ系電子資料（CD-ROM 等）等の資料には、内容細目があることがあるが、各種資料群における収集範囲や書誌データ作成の基準・運用は目録を作成した時期によって異なるため、全体の件数や割合、傾向を示すのは困難である。

また、複数巻を 1 つにまとめて扱った書誌データの場合には、各巻のタイトル等を内容細目に記録している。例えば、上巻、下巻それぞれの書誌データを作成せず、まとめて 1 件の書誌データを作成した場合、上巻及び下巻のタイトルを内容細目に記録する。また、録音資料及び映像資料では、曲目や各話タイトル等を記録している。ただし、平成 15（2003）年以前に受け入れたレコードについては、一部の SP レコード及び EP レコードを除き曲目からの検索はできない¹⁷。

（５）目次データベースの目次データ

リサーチ・ナビの目次データベースは、当館所蔵の和洋の図書・雑誌等のうち、当館のレファレンス・サービス担当職員が選択した参考図書・論文集・資料集等について、タイトルや著者名に加え、目次データも検索対象としたデータベースである。件数は約 9 万件で、リサーチ・ナビでは平成 21（2009）年 5 月から提供を開始

¹⁶ 雑誌記事索引記事採録基準 http://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/sakuin_select.html#article

¹⁷ SP レコードと EP レコードは AB 面の曲目がタイトルとして記録されているものがある。音楽・映像資料の探し方はリサーチ・ナビ「音楽・映像資料をさがす」（<http://rnavi.ndl.go.jp/avmaterial/post.php>）も参照。

しており、平成30（2018）年1月から国立国会図書館オンラインと連携し、検索対象となったものである。

2. 国立国会図書館オンラインの検索・表示対象

国立国会図書館オンラインの検索対象には、書誌、掲載巻号の書誌（巻号情報）、記事書誌、アイテム情報のレベルの異なる4種類のデータが存在する。データの種類ごとに目次等の表示要件等が異なるため、簡潔に各データの概略について解説する。

(1) 国立国会図書館オンラインの検索・表示対象¹⁸

(ア) 書誌

資料のタイトル、著者・编者、出版者、出版年等を記載し、検索システムで検索できるようにしたデータのこと。

(イ) 掲載巻号の書誌（巻号情報）

あるタイトルのもとに、複数の巻号の資料が存在する場合に、巻号単位で作成される書誌データのこと。内容は主に巻号タイトル、巻号の出版年月日等である。

(ウ) 記事書誌

主に雑誌において、記事や論文の単位で作成される書誌データのこと。内容は記事のタイトルや著者・编者等である。

(エ) アイテム情報

当館内の所蔵場所や利用状況等の情報を記載したデータのこと。雑誌の場合、巻号や巻号の出版年月日も記載されることがある。閲覧サービスや外部からの遠隔複写サービス¹⁹を申し込む場合は、アイテム情報が表示されている画面で任意のアイテム情報を指定して

¹⁸ 用語については、本稿末尾の参考文献を参照しながら、著者が独自に定義したものである。

¹⁹ 遠隔複写サービスを含む。詳細は「複写サービス」(<http://www.ndl.go.jp/jp/service/copy.html>)を参照。

申込みを行う。資料がインターネット公開されている場合は、閲覧・複写の申込みを行う必要がないためアイテム情報は表示されない。

(2) 書誌詳細画面の構成

(ア) 基本構成

図1は国立国会図書館オンラインの書誌詳細画面の基本構成である。書誌情報表示エリアに書誌が表示され、レベルの異なる書誌（掲載巻号の書誌（巻号情報）等）へのリンクが表示される。所蔵情報表示エリアにアイテム情報と、デジタル化資料の場合は、掲載巻号の書誌（巻号情報）へのリンクが表示される。内容情報表示エリアには内容細目及び目次データが表示される。

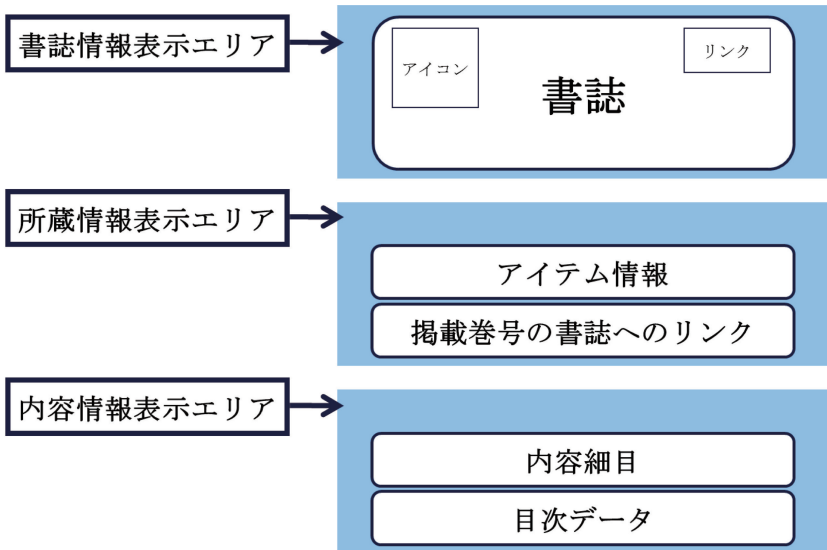


図1 書誌詳細画面 基本構成

(イ) アイコン

国立国会図書館オンラインの検索結果一覧画面と書誌詳細画面には、冊子体やマイクロフィルム等の資料形態がアイコンとして表示される。デジタル化資料は、元の資料形態のアイコンにオンライン（雲）のアイコンを重ねた表示となる。図2は資料形態別アイコンの一覧である。






	冊子体（図書・雑誌・新聞が含まれる）
	マイクロ資料（マイクロフィルム、マイクロフィッシュ等）
	CD/DVD-ROM（CD、DVD、レコード）
	オンライン
	その他（上記の資料以外）

図2 資料形態アイコン一覧

Ⅲ. 目次データの調べ方のポイントと表示画面

次に国立国会図書館オンラインの目次データを、その情報源ごとに、調べ方のポイント、国立国会図書館オンラインの表示画面を記載する。

1. デジタル化資料の目次データ

(1) ポイント

デジコレの目次データは簡易検索画面と詳細検索画面の「キーワード」欄でのみ検索でき、「タイトル」欄や「著者・編者」欄に入力しても検索することはできない。目次データの読みデータも付与されていないため、例えば資料の目次ページの表記が漢字表記だった場合、ひらがなやカタカナ等の仮名表記では検索することができない。また、目次データには分類や件名が付与されていない。そのため、公開範囲や収録資料の年代の範囲、目次データの有無と記載方法、検索できる目次データの種類や範囲を把握してから検索するとよい。

以下に、これら把握しておくべきポイントについて詳述する。

(ア) デジタル画像がインターネット公開でなくても目次データは閲覧できる

デジコレは内容をオンラインで閲覧できるが、表2に示す3つの公開範囲がある。本文画像が閲覧できない場合でも、目次データは閲覧可能である。

表2 デジコレの公開範囲

公開範囲	説明
インターネット公開	公開について著作権等権利状況に問題がないことが確認でき、インターネット上で本文が閲覧可能なもの。
国立国会図書館内/ 図書館送信	インターネット公開していない資料のうち、図書館向けデジタル化資料送信サービス参加館 ²⁰ と国立国会図書館の館内で本文が閲覧可能なもの。
国立国会図書館内	国立国会図書館の館内でのみ本文が閲覧可能なもの。

(イ) 図書は主に昭和43(1968)年までに受け入れた資料が、雑誌は主に平成12(2000)年までに発行された資料が検索できる

デジコレに現在収録している図書と雑誌の年代の範囲は、平成21(2009)年から平成24(2012)年にかけて実施した大規模なデジタル化の対象となった資料の年代を主に反映している。それ以降もデジタル化を行っているため、収録範囲は徐々にではあるが拡大している。なお、新聞については、デジタル化していないため、新聞記事の見出し等で検索することはできない。

²⁰ 図書館向けデジタル化資料送信サービスは、インターネットで公開していない国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を全国の公共図書館、大学図書館等(当館の承認を受けた図書館に限る。)の館内で利用できるサービスである。「図書館向けデジタル化資料送信サービス」(<http://www.ndl.go.jp/jp/service/digital/index.html>)を参照。

(ウ) 資料種別等により目次データの有無や記載方法が異なる

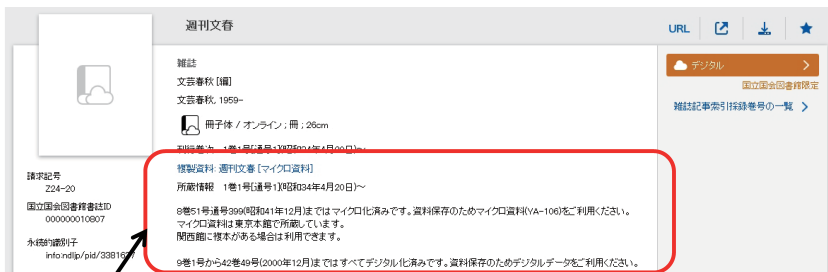
資料種別等により、目次データの有無や記載方法は異なる。例えば、古典籍資料、憲政資料等については目次データを作成していない。また、図書、雑誌等には目次データを作成しているが、目次ページがない資料、加除式資料、目次ページが判読困難な資料、複雑な数式等テキストデータとしての入力難しい資料等の場合は、目次データを入力していない。目次データがない資料は、デジタル画像の目次ページ等を目視確認する必要がある。

目次ページに記載された論題や著者名は、本文中に記載された表記と異なる場合がある。図書の目次データは原則として資料の目次ページの記載どおりに入力しており、著者名や掲載ページ数の記載が有るものも無いものも混在する。雑誌の目次データの記述は、資料の目次ページの記載をベースにしつつ、可能な場合には、本文を確認して著者名や掲載ページを補って作成しているほか、雑誌記事索引の情報を活用して、雑誌記事索引からのリンクを実現している。

(エ) 雑誌は全巻号の目次データが検索できるとは限らない

国立国会図書館オンラインでは、デジコレに収録したデジタル化資料の目次データが新たに検索対象となった。当館所蔵の紙媒体で刊行された雑誌は、マイクロ化又はデジタル化された巻号が存在する場合があるが、デジタル化済みの巻号は、このデジタル化資料の目次データを検索することができる。画面1は『週刊文春』の例である。8巻51号通号399（昭和41年12月）まではマイクロ化済み、9巻1号から42巻49号（2000年12月）まではデジタル化済みであることがわかる。マイクロ資料と冊子体で提供する巻号は、デジタル化資料の目次データはない。

なお『週刊文春』は他に雑誌記事索引を38巻22号（1996年6月13日）から採録しているため、43巻以降も目次データが検索可能である。



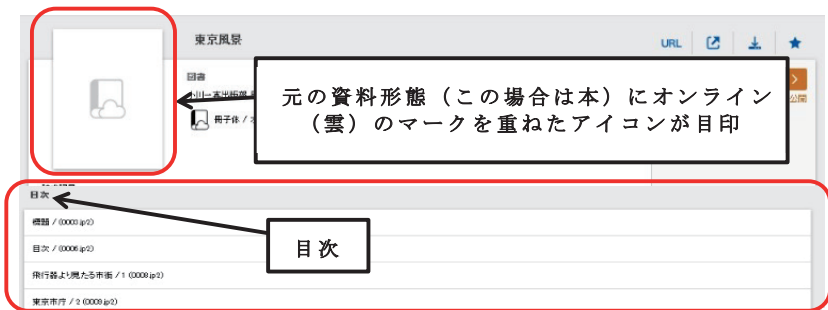
8巻51号通号399(昭和41年12月)まではマイクロ化済みです。資料保存のためマイクロ資料(YA-106)をご利用ください。(中略)
9巻1号から42巻49号(2000年12月)まではすべてデジタル化済みです。資料保存のためデジタルデータをご利用ください。

画面1 巻号により提供媒体が異なる雑誌

(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法

(ア) 図書

アイコンは、「本」が冊子体(図書、雑誌、新聞)を、「雲」がオンラインを意味するが、デジタル化された資料の書誌は、元の資料形態(画面2の場合は冊子体)にオンライン(雲)のマークを重ねたアイコンが表示され、デジタル化した巻号の書誌は雲のみのアイコンが表示される²¹(画面3参照)。また書誌詳細画面の下に、目次として表示される(画面2)。



画面2 デジタル化資料の目次データ 図書

²¹ 冊子体以外の有体資料(マイクロフィルム等)の場合はアイコンが異なる(図2参照)。

(イ) 雑誌

雑誌の書誌が「冊子体」(本)に雲を重ねたアイコンで示されるのは図書と同様。デジタル化された巻号の書誌は、掲載巻号の書誌(巻号情報)の書誌詳細画面の下部に「目次」として表示され(画面3)、オンライン(雲)のアイコンが表示される。



画面3 デジタル化資料の目次データ 雑誌

2. 電子雑誌の記事

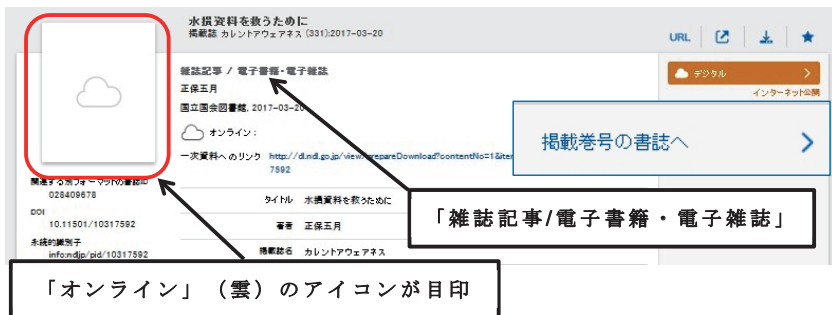
(1) ポイント

デジコレに収録した電子書籍・電子雑誌のうち、電子雑誌の記事は国立国会図書館オンラインで検索可能である。読みデータの有無はデータ提供機関により異なるため、さまざまな表記形で検索を試すとよい。

※電子書籍や博士論文電子版の目次データは国立国会図書館オンラインでは検索できないが、デジコレでは検索できることがあるので、当館が収集したポーンデジタル資料の目次データについてはデジコレでの検索の方が有利である。

(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法

記事単位の書誌として表示される。「オンライン」(雲)のマークのアイコンが表示され、資料種別が「雑誌記事 / 電子書籍・電子雑誌」である書誌が記事書誌である(画面4)。



画面4 電子雑誌の記事書誌（書誌詳細画面）

画面4の電子雑誌の記事書誌（書誌詳細画面）の右側には、「掲載巻号の書誌へ」のリンクがあり、掲載巻号の書誌（巻号情報）へ遷移できる。掲載巻号の書誌（巻号情報）の「この資料の記事」には記事一覧が表示され、クリックすると、記事書誌の書誌詳細画面に遷移する（画面5）。



画面5 電子雑誌の掲載巻号の書誌（巻号情報）書誌詳細画面

3. 雑誌記事索引

(1) ポイント

雑誌記事索引の論題名と著者名等は、「キーワード」欄だけでなく、それぞれ詳細検索の「タイトル」欄、「著者・編者」欄からも検索ができる。記事自体あるいは目次ページを情報源としている。

読みデータがあり、仮名表記でも検索することができるが、仮名表記で見つからない場合²²は、漢字表記に変えて検索するとよい。また、収録範囲、採録誌選定基準、記事採録基準、検索項目をおおまかに把握しておくといよい。

以下、検索に際して留意すべきポイントの概要を記載する。

(ア) 収録期間

雑誌記事索引は、主に国内刊行和文雑誌を対象とし、冊子体の目録として昭和 24 (1949) 年 2 月から刊行を開始したため、昭和 23 (1948) 年以降に刊行された国内刊行和文雑誌の記事を探す場合は、国立国会図書館オンラインで記事名からの検索を試すとよい。ただし、採録誌であっても、刊行途中の号から採録を開始した場合等、目的の巻号が採録対象外である場合もある。

(イ) 形態

従来、雑誌記事索引では、紙資料のみを採録対象とし、採録誌が電子資料に移行した時点で採録を中止していたが、平成 24 (2012) 年 1 月からは、一部のパッケージ系電子資料を採録対象とするよう、運用を見直した。

(ウ) 記事の採録基準 (ページ数、対象記事等)

「雑誌記事索引記事採録基準」(脚注 16 参照) を定めており、原則として 3 ページ以上にわたる記事を採録対象とし、2 ページ以下の記事は採録対象外としている。また 3 ページ以上にわたっていても、読者投稿欄等は採録していない。

(エ) 採録誌

採録誌は、長く学術雑誌が中心であったが、平成 8 (1996) 年以

²² 平成 23 (2011) 年 12 月以降に作成したデータの読みは日本語自然文解析ソフトウェア (ハピネス) で機械的に付与しているため、読みが誤っているものも含まれる。また、平成 23 (2011) 年 12 月以降は資料に読みの根拠が記載されていなければ、著者名の読みは付していない。

降に『サンデー毎日』等一部の一般週刊誌が含まれるようになった。児童誌は「雑誌記事索引採録誌選定基準」で採録誌としないこととしているが、平成 23 (2011) 年 12 月まで児童書総合目録²³に記事を採録していた月刊絵本雑誌(『こどものとも』(福音館書店)等 1 冊 1 話で構成される幼児向けの雑誌) 18 タイトルについては、平成 24 (2012) 年 1 月以降雑誌記事索引に含める扱いとしている。児童書総合目録で提供されていた平成 23 (2011) 年 12 月以前刊行分も含め、作品名・著者名が雑誌記事索引で検索可能である²⁴。

雑誌記事索引採録誌の場合は、雑誌書誌の「管理上の注記」の項には「雑誌記事索引採録あり」と表示され、「注記」には採録期間が記載されるので確認する必要がある(画面 6)。詳細は「雑誌記事索引採録誌選定基準」や「雑誌記事索引採録誌一覧」を参照のこと。

管理上の注記	雑誌記事索引採録あり
注記	国立国会図書館雑誌記事索引(通号: 190) 1977.01～

画面 6 書誌詳細 採録期間の注記

(オ) 検索項目

「キーワード」欄から検索できるほか、国立国会図書館オンラインの詳細検索で資料種別「雑誌記事」を選択すると、論題名を「タイトル」欄、著者名等を「著者・编者」欄から検索することができる。その他に「掲載誌名」「出版年」等からも検索できる。特に旧 NDL-OPAC と国立国会図書館オンラインの入力欄や表示項目の名称が異なる等、注意を要するデータ項目をまとめたのが表 3 である。旧 NDL-OPAC と NDL-Bib の書誌詳細画面における表示項目

²³ 「児童書総合目録について」(<http://iss.ndl.go.jp/kodomo/>) を参照。

²⁴ 「雑誌記事索引の成り立ち」(http://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/sakuin_select.html#origin) も参照のこと。

名称は同じである。

表 3 雑誌記事索引データ項目で注意を要する項目例

旧 NDL-OPAC	国立国会図書館オンライン	
表示項目（書誌詳細画面）	表示項目 （書誌詳細画面）	入力欄 （詳細検索画面） ²⁵
特集等	シリーズ	タイトル
他言語論題	別タイトル	タイトル
レポート番号	レポート番号 （雑誌記事）	各種番号等
キーワード	件名	件名
記事種別／記事分類	注記	キーワード

表 3 中「旧 NDL-OPAC の書誌詳細画面の表示項目」の「キーワード」は、学術雑誌等の論文において「キーワード」等の見出しの下に表示された、その論文が扱うテーマを採録したものである。国立国会図書館オンラインでは「件名」として検索が可能であるが、記載されているとおりに入力したもので、国立国会図書館の件名標目として統制した検索語ではない。また昭和 50（1975）年～平成 23（2011）年 10 月に作成された雑誌記事索引データには、記事種別（例：「文献目録」「総目次」）が付与されている。さらに昭和 50（1975）年～平成 7（1995）年に作成された雑誌記事索引には、記事分類（例：「学術・文化 -- 図書館・ドキュメンテーション・博物館」）が付与されている。これらは「キーワード」欄から検索でき、書誌詳細画面の注記に表示される。また、雑誌記事索引では典拠データ²⁶が付与されていないが、国立国会図書館オンラインでは、記事書誌の著者標目の右の虫眼鏡マークをクリックすることで著者・編者が再検索できる。ただし、この著者標目は国立国会図書館として統制した検索語ではない（画面 7）。

²⁵ キーワード欄では全て検索することができる。

²⁶ 著者名や件名を表す語について、別表記や同義語・関連語などを集めたデータのこと。国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス（Web NDL Authorities（http://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/ndla.html））も参照のこと。

シリーズ	特集 会計史研究の過去と現在	🔍
掲載誌情報	http://idndl.go.jp/bib/000000008498	
注記	記事種別: 文献目録	
著者標目	中野 常男	🔍
	橋本 武久	🔍
件名	1917年	🔍
	会計学	🔍

虫眼鏡マークをクリック

画面 7 記事書誌（書誌詳細画面）からの再検索

(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法

記事単位の書誌として表示される。「冊子体」（本）のマークのアイコンが表示され、資料種別が「雑誌記事」である書誌が記事書誌である（画面 8）。

NDLとOPAC 1989-2017
掲載誌 国立国会図書館月報 (681)2018.1 p.16-21

URL [🔗](#) [📄](#) [📌](#) [★](#)

雑誌記事
東京: 国立国会図書館, 1961-

冊子体:

タイトル NDLとOPAC 1989-2017
タイトルよみ NDLト OPAC 1989-2017

掲載誌名 国立国会図書館月報
雑誌の刊行情報 東京: 国立国会図書館, 1961-

巻号・年月日 (681)2018.1

「冊子体」（本）のアイコンが目印

掲載巻号の書誌へ >

「雑誌記事」

画面 8 雑誌記事索引の記事書誌（書誌詳細画面）

画面 8 の雑誌記事索引の記事書誌（書誌詳細画面）の右側には、「掲載巻号の書誌へ」のリンクがあり、掲載巻号の書誌（巻号情報）へ遷移できる。掲載巻号の書誌（巻号情報）の「この資料の記事」には記事一覧が表示され、クリックすると、記事書誌の書誌詳細画面に遷移する（画面 9）。



画面 9 掲載巻号の書誌 (巻号情報)

4. 内容細目

(1) ポイント

内容細目に収録したタイトルと著者名は、「キーワード」欄から検索できるだけでなく、それぞれ詳細検索画面の「タイトル」欄、「著者・編者」欄からも検索できる (画面 10)。ただし、一括して記録した内容細目 (複数巻を 1 つにまとめた書誌データの場合等。画面 11 を参照) の著者名については、「著者・編者」欄からは検索できない。また原則として読みデータは付与していないので、表記形でのみ検索可能である。²⁷

(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法

書誌詳細画面に「内容細目」として表示される。(画面 10)



画面 10 1冊ごとに作成した書誌の内容細目

²⁷ 過去に整理した資料の中には読みデータを付与した資料も存在する。

一括して記録した内容細目は、画面 11 のように表示される。

創立二十五周年記念論文集【第1-3】

図書
福岡大学研究所, 1959
冊子件: 1冊: 22cm

請求記号
041-H799k
国立国会図書館登録ID
000000892836

内容細目

[第1] 法学編 西ドイツにおける表現の自由と治安規定(石村晋次) 国際平和志の接近(渡辺肇生) 漢文ネルテンスク条約の研究(野見山道) フランスにおける富業の発展について(古田竜夫) 補償利益を伴わない、未必的保護を伴った処分の処分(田辺康平) Perils of the Seasの概念(今村哲) 古代半シヤ法における私的所有権の起源と発展(古村祐二) Unjust Enrichment(中村彦助)

[第2] 経済学編 経済学史片言(植田鉄精) ラウの形教訓について(小山田小七) アリストテレスの経済学(宮崎力哉) 徳寧・元豊年間における小作経営と商業資本との関連性としてその變遷について(河原田) マーシャル経済学に於けるノート(村出口一夫) ヨーロッパ経済統合私見(野田甲富) 中国における生産力の発展と生産関係(仲研祐義) 交換性回復の本位制の意義に就いて(中道啓一郎) 計画モデルと社会厚生(伊東正助) 同一労働同一賃金の原則について(中田登久雄) 泉米権限と投資(長岡直) [第3] 簿学編 簿記体系の特長について(吉川潔) 経営技術論(瀧野水田助) 企業会計の二元性性格と勘定体系(中村慎) 会計学の学理的性格に関する一考察(原中豊夫) 日本における資金制度の発達および特殊形(佐下武二) 日本の証券市場における初期共同投資関係上の諸問題(植田林三) 公益事業の合理的価格の特長について(佐藤健堂) 近世における特種商人の類型(藤本隆士) 商業貨物の生産過程(福岡重行) わが國の戦後貿易と産業構造(中田操六)

画面 11 複数巻を一つにまとめた書誌の内容細目

5. 目次データベースの目次データ

(1) ポイント

(ア) 調べものによく使う参考図書には詳細な目次データがある可能性がある

各分野の基本的な参考図書（外国語資料を含む）の目次データの採録を進めているので、探したいテーマを「キーワード」欄に入れて検索すると、この目次データがヒットする場合がある。資料によっては、デジコレ等他の目次データよりも情報量が多いことがあるので、目次データベースの目次データが書誌詳細画面に表示されている場合は、内容をよく確認することをお勧めする。なお、デジコレの目次データと同様に、目次ページがない資料、加除式資料、目次ページが判読困難な資料、複雑な数式等テキストデータとしての入力が難しい資料等は、目次データを採録していない（III 章 1 (1) (ウ) 参照）。

(イ) 国立国会図書館オンラインでは「キーワード」欄でのみ検索できる

目次データは簡易検索画面と詳細検索画面の「キーワード」欄でのみ検索できる。「タイトル」欄や「著者・编者」欄に入力しても

検索できない。また、目次データベースでは独自の分類を付与しているが、この分類は国立国会図書館オンラインには移行していないため、目次データベースでのみ検索可能である。

なお、目次データベースの「条件を指定して内容情報を検索」画面から「楽譜」「新聞編年史」等の16種類の目次分類で検索した場合の各目次分類とその書誌件数は表4のとおりである。「その他」以外では、楽譜が突出して多いことがわかる。

表4 目次分類ごとの書誌件数²⁸

目次分類	書誌件数	目次分類	書誌件数
楽譜	28,365	医療情報	2,919
白書	112	技術動向レポート	1,542
日本の議会資料	1,267	企業・団体名鑑索引	833
日本の法令集	2,702	市場動向レポート	3,001
旧外地法令集	64	新聞編年史	191
軍事関係資料	777	古典籍細目	17
地方史（誌）	2,040	憲政資料細目	306
地図	124	その他	41,548

(ウ) 読みデータは検索できない

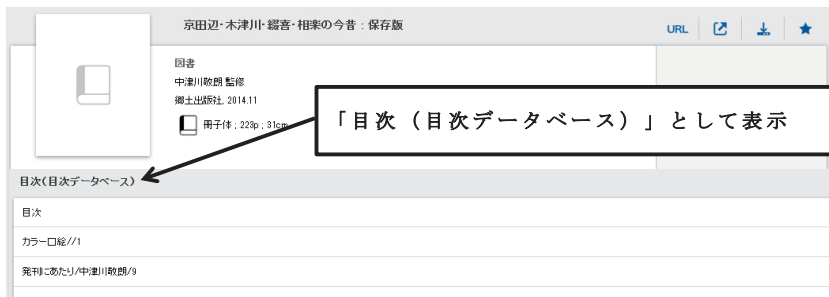
読みデータは付与していないため、漢字形等表記を考慮して検索を試す必要がある。

(2) 国立国会図書館オンラインでの表示方法

(ア) 図書

書誌詳細画面の下部に「目次（目次データベース）」として表示される（画面12）。

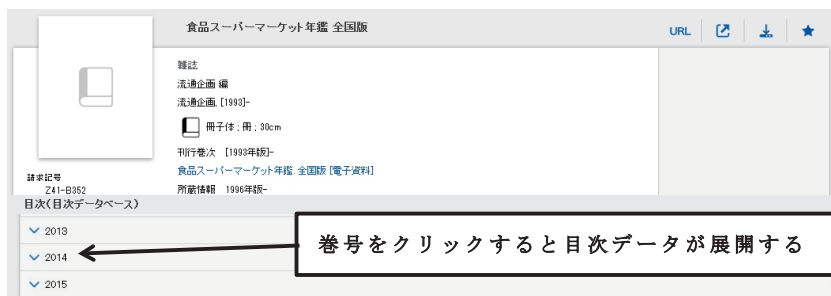
²⁸ 件数は「条件を指定して内容情報を検索」画面から各目次分類を検索して算出した。目次データが紐づく書誌の書誌IDの数であり、複数の目次分類が付与されているデータもあるため、合算してもII章の件数とは一致しない（平成29（2017）年10月31日現在）。



画面 12 目次データベースの目次データ（図書）

(イ) 雑誌

雑誌の場合は、雑誌書誌の書誌詳細画面の下部に目次（目次データベース）として表示される。巻号ごとに折りたたまれて表示され、巻号をクリックすると目次データが展開する（画面 13）。



画面 13 目次データベースの目次データ（雑誌）

6. 画面遷移

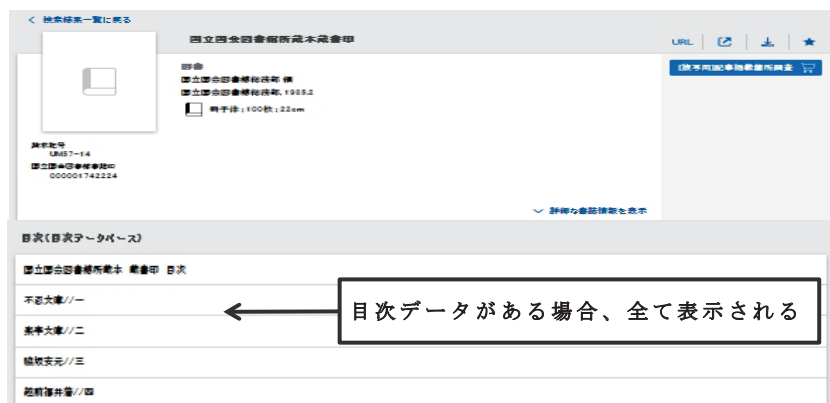
これまでに述べたように、目次データは種類ごとに内容と表示画面が異なるため、複数の目次データを比較するには、画面遷移を行わなければならない場合がある。表 5 は資料の種類と主な提供媒体ごとに画面遷移の要・不要を表に整理したものである。図書（複数巻を 1 つの書誌にまとめた資料）や雑誌等、書誌データに階層構造を持つ資料が画面遷移の対象である。なお、冊子体以外の有体資料（マイクロフィルムや CD-ROM 等）については画面遷移が冊子体と変わらないため割愛した。

表5 画面遷移の有無

資料の種類／提供媒体	冊子体	デジタル化資料	ポーンデジタル資料
図書（1冊ごとに書誌を作成した資料）	× 不要	× 不要	—（目次データなし）
図書（複数巻を1つの書誌にまとめた資料）	× 不要	○ 必要	—（目次データなし）
雑誌	雑誌記事索引採録誌：○ 必要 非採録誌：× 不要	○ 必要	○ 必要

(1) 図書（1冊ごとに書誌を作成した資料）

図書で1冊ごとに書誌を作成した資料は、目次データがある場合、全て当該資料の書誌詳細画面に表示されるため、目次データを確認するために画面遷移を行う必要はない（画面14）。



画面14 図書（1冊ごとに書誌を作成した資料）書誌詳細画面

(2) 図書（複数巻を1つの書誌にまとめた資料）

図書で複数巻を1つにまとめて書誌を作成した資料で、冊子体で提供されるもの場合は、その目次データは全て当該資料の書誌詳細画面に表示される。目次データを確認するために画面遷移を行う必要はない。

一方、デジタル化資料の場合は、複数巻の目次データを確認する

には、画面遷移を行う必要がある。複数巻を1つにまとめて扱った資料の書誌詳細画面には、内容細目と目次データベースの目次データは表示されるが、個々の巻号のデジタル化資料の目次データは表示されないためである。図3は2巻を1つにまとめて扱ったデジタル化資料の画面遷移を示したものである。デジタル化資料の目次データは、デジコレか国立国会図書館オンラインの掲載巻号の書誌（巻号情報）の書誌詳細画面に遷移して確認する必要がある。具体的には、①雲のアイコンをクリックするとデジコレに遷移し、②所蔵一覧のタイトルの文字列をクリックすると国立国会図書館オンラインの掲載巻号の書誌（巻号情報）の書誌詳細画面に遷移する。

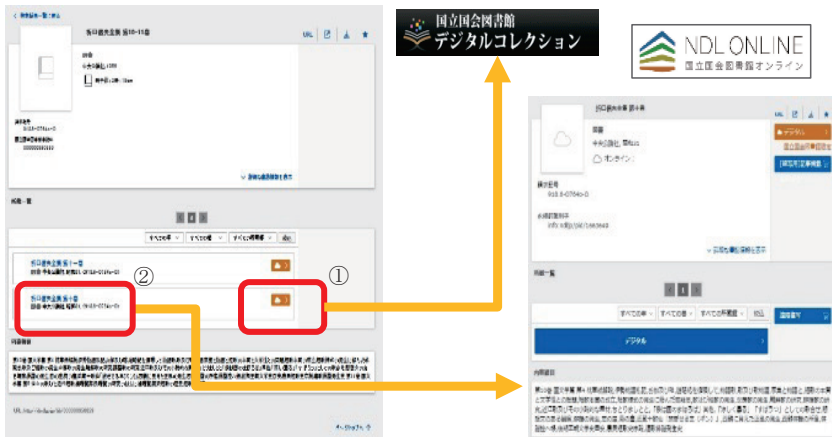


図3 図書（2巻を1つにまとめて扱ったデジタル化資料）の画面遷移

(3) 雑誌

図4は雑誌の画面遷移を示したものである。

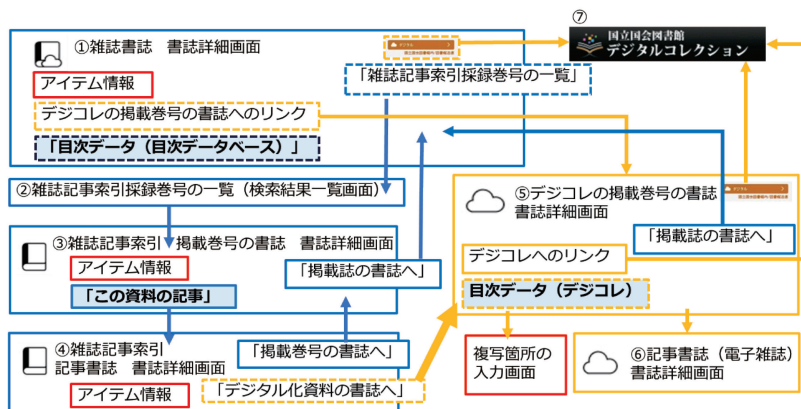


図4 雑誌の画面遷移

矢印はリンクを示している。矩形は表示される項目を示しているが、破線で表示した項目は表示される場合と表示されない場合がある。

以下、雑誌記事索引採録誌か否かとデジタル化済みか否かの条件を掛けあわせて、画面遷移の有無と遷移方法を記載する。またどのような場合に項目が表示されるかも併せて記載する。

(ア) 雑誌記事索引非採録誌（冊子体やマイクロ形態で提供）

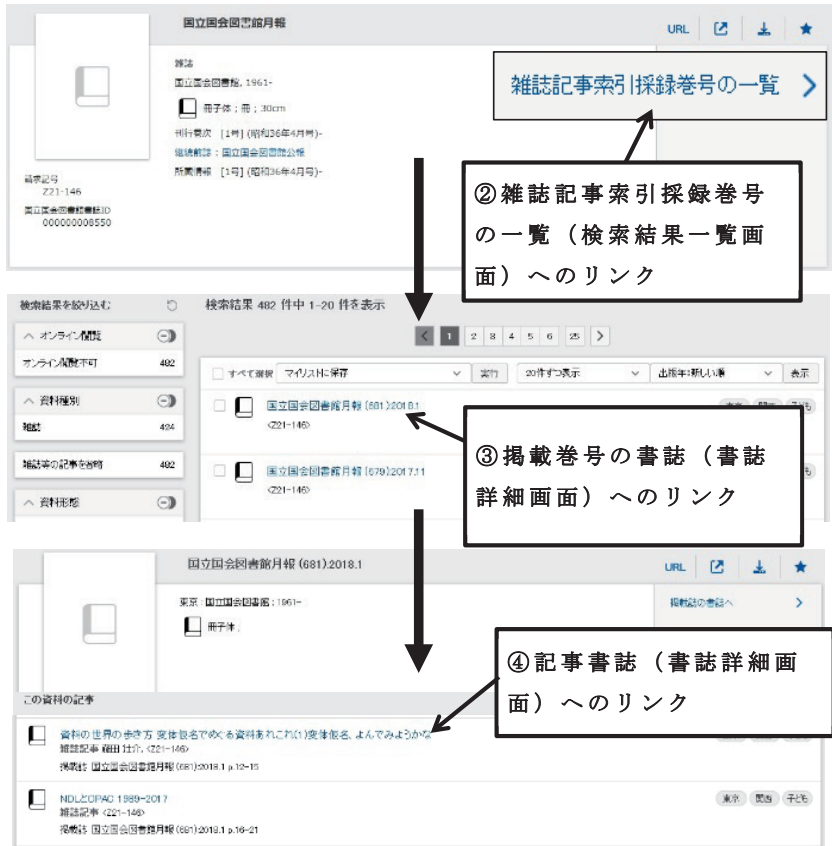
雑誌記事索引非採録誌で、未デジタル化のため冊子体やマイクロ形態で提供される雑誌は、画面遷移する必要はない。目次データベースの目次データがある場合は①の雑誌書誌の書誌詳細画面に表示され、デジコレへのリンクや、雑誌記事索引採録巻号の一覧（検索結果一覧画面）へのリンク等、他の種類の目次データへのリンクは表示されない。

(イ) 雑誌記事索引採録対象（冊子体やマイクロ形態で提供）

対象巻号が雑誌記事索引採録対象で、未デジタル化のため冊子体やマイクロ形態で提供される雑誌は、③の掲載巻号の書誌（巻号情報）の「この資料の記事」や④記事書誌の書誌詳細画面を確認するためには、①雑誌書誌詳細画面の右側にある「雑誌記事索引採録巻

号の一覧」から②雑誌記事索引採録巻号の一覧に一旦遷移する。そこで掲載巻号の書誌（巻号情報）を選択して③掲載巻号の書誌（巻号情報）の書誌詳細画面へ遷移し、そこに示された「この資料の記事」から記事を選択して④記事書誌の書誌詳細画面へ遷移する必要がある。画面 15 は雑誌記事索引採録誌である『国立国会図書館月報』の書誌詳細画面から雑誌記事索引採録巻号の一覧に遷移したのち、検索結果一覧画面から掲載巻号の書誌（巻号情報）の書誌詳細画面に遷移し、記事書誌の書誌詳細画面に遷移する直前までの流れを示したものである。

④記事書誌の書誌詳細画面からは、逆に、画面右側の「掲載巻号の書誌へ」をクリックして③掲載巻号の書誌（巻号情報）詳細画面へ遷移し、「この資料の記事」に表示された記事の一覧を確認できる。さらに③掲載巻号の書誌（巻号情報）詳細画面から①雑誌書誌の書誌詳細画面に遷移することも可能である。

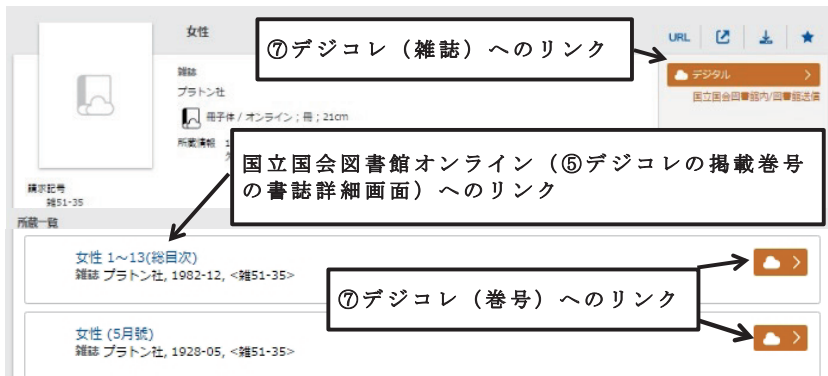


画面15 ①雑誌書誌⇒③掲載巻号の書誌（巻号情報）⇒④記事書誌の間の遷移

(ウ) 雑誌記事索引非採録誌（デジタル化資料で提供）

雑誌記事索引非採録の雑誌で、デジタル化済みの場合、記事の一覧を確認するためには、検索結果一覧の雲のみのアイコンで表示される目的の巻号をクリックし、画面下の目次データを確認するか、検索結果一覧若しくは①雑誌書誌の書誌詳細画面の目的の巻号の横に表示される「デジタル」ボタンから⑦デジコレの当該雑誌に遷移して目次データを確認する必要がある。画面16の雑誌書誌の書誌詳細画面の右上側に表示される「デジタル」ボタン（雲のアイコン）

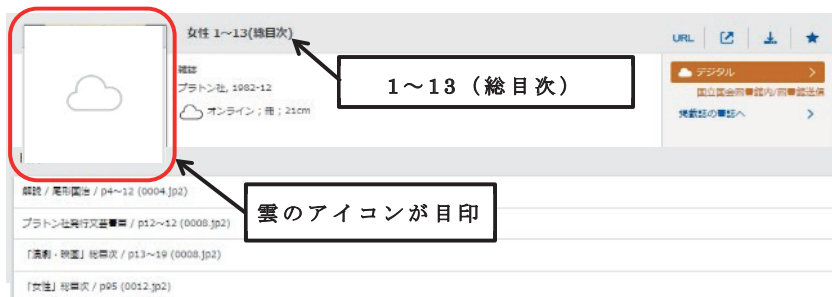
ン)は⑦デジコレの雑誌へのリンクである。画面下部の所蔵一覧のタイトルのリンクは⑤デジコレの掲載巻号の書誌(巻号情報)詳細画面へのリンクである。同じく所蔵一覧のエリアにある雲のアイコンは、⑦デジコレの巻号へのリンクである。デジタル化資料の場合は、この書誌詳細画面の中央右にある「遠隔複写」ボタンをクリック²⁹することにより、複写箇所の入力画面を開いて遠隔複写を申し込むこともできる。



画面 16 ①雑誌書誌 書誌詳細画面

画面 17 は画面 16 の所蔵一覧の国立国会図書館オンライン (⑤デジコレの掲載巻号の書誌 (巻号情報) 詳細画面) へのリンクから⑤デジコレの掲載巻号の書誌 (巻号情報) の書誌詳細画面 (『女性』1～13 (総目次)) へ遷移した画面である。タイトルに巻号情報が記載され、アイコンは雲、掲載巻号の書誌 (巻号情報) のもとに目次データが表示されている。

²⁹ 遠隔複写ボタンは登録利用者が国立国会図書館オンラインにログインすると表示される。遠隔複写サービスの詳細は「複写サービス」(<http://www.ndl.go.jp/jp/service/copy.html>)を参照。

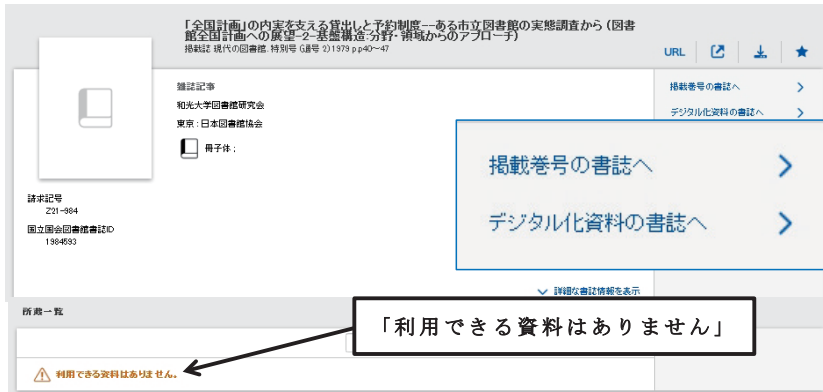


画面 17 ⑤デジタル化資料の掲載巻号の書誌

(エ) 雑誌記事索引採録対象（デジタル化資料で提供）

画面 18 は雑誌記事索引採録対象で、かつデジタル化済みの巻号の④雑誌記事索引記事書誌の書誌詳細画面である。雑誌記事索引記事書誌の書誌詳細画面からは、画面右側の「掲載巻号の書誌へ」をクリックして③雑誌記事索引の掲載巻号の書誌（巻号情報）詳細画面へ遷移し、巻号に収録された記事の一覧を確認できる。記事が収録されている巻号がデジタル化され、デジタル化資料の目次データにリンクしている場合は、④記事書誌の書誌詳細画面に「デジタル化資料の書誌へ」が表示される。デジタル化資料の目次データにリンクしていない場合はこのリンクは表示されない。

デジタル化資料の④雑誌記事索引の記事書誌の書誌詳細画面では、所蔵一覧のアイテム情報は「利用できる資料はありません」と表示され、この画面から遠隔複写を申し込むことはできない。遠隔複写を申し込むには、「デジタル化資料の書誌へ」をクリックするか、①雑誌書誌の書誌詳細画面まで戻って「所蔵一覧」から目的の巻号をクリックし、⑤デジコレの掲載巻号の書誌（巻号情報）詳細画面、複写箇所の入力画面へと遷移する必要がある。



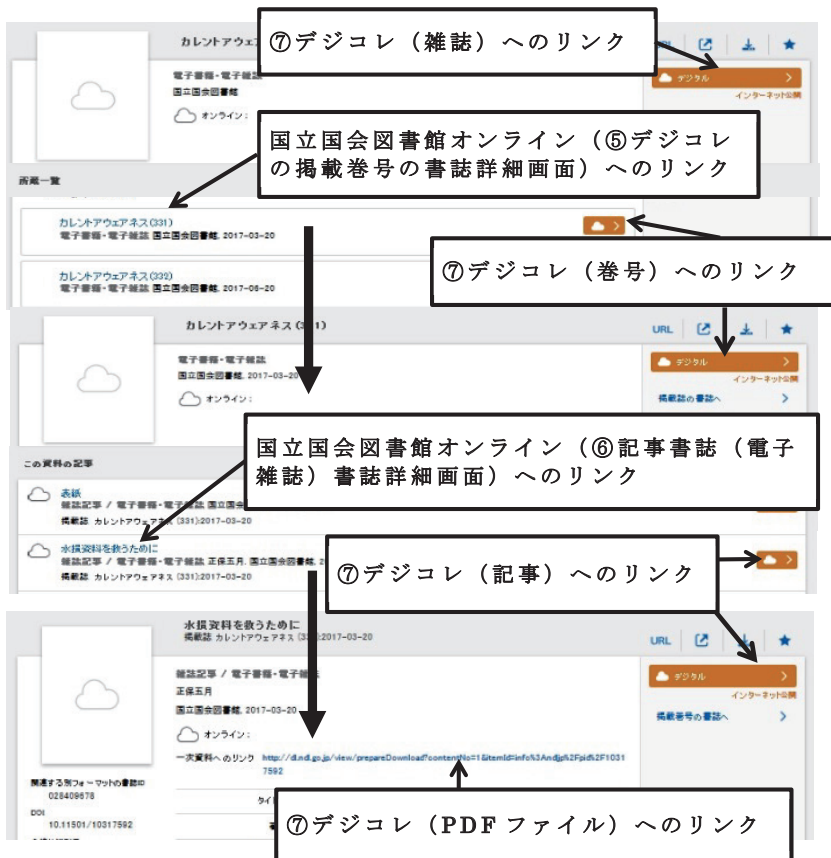
画面 18 ④記事書誌詳細画面での「掲載巻号の書誌へ」「デジタル化資料の書誌へ」のリンク

(オ) 電子雑誌の場合

電子雑誌で記事書誌がある場合、記事の一覧や記事書誌を確認するためには、雑誌書誌⇔掲載巻号の書誌（巻号情報）⇔記事書誌間の画面遷移が発生する。⑤デジコレの掲載巻号の書誌（巻号情報）詳細画面や⑥記事書誌（電子雑誌）の書誌詳細画面を確認するためには、まず①雑誌書誌の書誌詳細画面の所蔵一覧から掲載巻号のタイトルをクリックし、⑤デジコレの掲載巻号の書誌（巻号情報）詳細画面に遷移し、そこに示された記事の一覧から記事を選択して⑥記事書誌（電子雑誌）へ遷移する必要がある。画面 19 は電子雑誌『カレントアウェアネス』の雑誌書誌から掲載巻号の書誌（巻号情報）詳細画面に遷移し、記事書誌に遷移するまでの流れを示したものである。⑥記事書誌の書誌詳細画面からは、逆に、画面右側の「掲載巻号の書誌へ」をクリックして⑤掲載巻号の書誌（巻号情報）詳細画面へ遷移し、そこから①雑誌書誌の書誌詳細画面に遷移することも可能である。

なお、①雑誌書誌詳細画面の右上側に表示される「デジタル」ボタンは⑦デジコレの雑誌へのリンクである。①雑誌書誌詳細画面の所蔵一覧と⑤デジコレの掲載巻号の書誌（巻号情報）詳細画面の右上側に表示される「デジタル」ボタンは⑦デジコレの巻号へのリン

クである。また、⑥記事書誌（電子雑誌）の書誌詳細画面の右上側に表示される「デジタル」ボタンは⑦デジコレの記事へのリンクであり、⑥記事書誌（電子雑誌）の書誌詳細画面の「一次資料へのリンク」は、⑦デジコレのPDFファイルへのリンクである。



画面 19 ①雑誌書誌⇒⑤掲載巻号の書誌⇒⑥記事書誌の間の遷移（電子雑誌）

Ⅳ. 調べ方のポイント

本章では、これまでの内容を踏まえつつ、国立国会図書館オンラインの目次データの調べ方のポイントについて記載する。

本題に入る前に、Ⅱ・Ⅲ章の内容を整理しておく。次ページの、表6は国立国会図書館オンラインの入力欄（検索語）と検索対象となる目次データの種類を、表7は目次データの種類ごとの留意点を、それぞれまとめたものである。

1. 全般

(ア) 資料種別を「すべて」にして、キーワード欄から検索する

資料種別を限定すると検索対象外になる目次データがあり、また「キーワード」欄からしか検索できない目次データがあるため、詳細検索では資料種別を「すべて」にして、「キーワード」欄から検索するとよい。検索結果が多数になる場合は、検索後に検索結果一覧画面左側の「検索結果を絞り込む」から検索結果を任意の項目で絞り込むとよい。

(イ) さまざまな表記形で検索を試す

読みデータがなく、仮名表記では検索できない目次データがあり、またアラビア数字と漢数字等実際の目次ページの記載のしかたも様々であるため、目的の資料が見つからない場合は、漢字等別の表記形でも検索を試みるとよい。

(ウ) 複数の目次データがある場合は比較する

5種類の目次データそれぞれで、記載内容が異なることがあるため、調べもの際には、全ての目次データを確認するとよい。

表 6 入力欄（検索語）と検索対象となる目次データの種類

入力欄（検索語）	検索対象となる目次データの種類
キーワード	○デジタル化資料の目次データ ○電子雑誌の記事 ○雑誌記事索引 ○内容細目 ○目次データベースの目次データ
タイトル、著者・编者	×デジタル化資料の目次データ ○電子雑誌の記事 ○雑誌記事索引 △内容細目 ×目次データベースの目次データ
キーワード（読み） タイトル（読み）	×デジタル化資料の目次データ △電子雑誌の記事 ○雑誌記事索引 ×内容細目 ×目次データベースの目次データ

表 7 目次データの種類ごとの留意点

目次データの種類	留意点
デジタル化資料の目次データ	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル画像がインターネット公開でなくても目次データは閲覧できる ・図書は主に昭和43（1968）年受け入れ分まで、雑誌は平成12（2000）年発行分までが検索できる ・資料種別等により目次データの有無や記載方法が異なる ・雑誌は全巻号の目次データが検索できるとは限らない ・読み（仮名表記）では検索できない
電子雑誌の記事	<ul style="list-style-type: none"> ・読み（仮名表記）で検索できるものとできないものが混在する ・デジコレも検索するとよい
雑誌記事索引	<ul style="list-style-type: none"> ・読み（仮名表記）でも検索できる ・昭和23（1948）年以降に刊行された国内刊行和文雑誌は記事名からの検索を試すとよい ・採録対象は一部の雑誌・記事に限られる ・全巻号の目次データが検索できるとは限らない ・旧NDL-OPACと検索項目名が異なる項目がある
内容細目	<ul style="list-style-type: none"> ・読み（仮名表記）では検索できない ・一括して記録した内容細目の著者名は「著者・编者」欄から検索できない
目次データベースの目次データ	<ul style="list-style-type: none"> ・調べものによく使う参考図書には詳細な目次データがある可能性がある ・読み（仮名表記）では検索できない ・目次分類は検索できない ・楽譜の目次データが多い

(エ) 目次データに限定した検索はできない

国立国会図書館オンラインでは、記事単位のみを収録した雑誌記事索引を除き、他の書誌情報を除外して目次データのみで限定した検索はできない。

※国立国会図書館オンラインの目次データの情報源であるデジコレ及び目次データベースでは詳細検索画面で目次に限定した検索が可能である。

(オ) 目次データを除外した検索はできない

逆に国立国会図書館オンラインでは、目次データを除外して検索することはできない。ただし、詳細検索で「オンライン閲覧」の項目を「オンライン閲覧不可」に指定するか、検索後に左側の「検索結果を絞り込む」で「オンライン閲覧不可」に限定すれば、デジコレの目次データは除外できる。また資料種別で「雑誌記事索引」のチェックを外すと、雑誌記事索引も除外できる。

※NDL-Bibでは、デジコレ及び目次データベースの目次データは収録対象外であるため、始めからそれらの目次データを除外した状態で検索可能である。

2. 図書

図書については、探している資料のタイトルや著者名、出版者名等が判明していれば、簡易検索画面の「キーワード」欄にスペースで区切って入力し、検索結果の書誌詳細画面に「内容細目」や「目次データ」が表示されていれば通覧するとよい。

もしタイトルや著者名等が不明な場合は、「キーワード」欄に探したい言葉を入力し、検索結果一覧画面を通覧して資料を探すとよい。

3. 雑誌

(1) 概要

雑誌については、以下のような手順で探すと効率よく雑誌記事の掲載箇所を特定できる。

- ① 記事名で検索し、検索結果一覧からインターネット公開の資料を探し、デジタル画像から内容を確認する。

- ② インターネット公開資料がない場合、目次データを確認する。
- ③ 記事名が不明な場合や探している記事が見つからない場合は、雑誌名で検索し、巻号の目次データがあれば通覧する。

国立国会図書館オンラインでは、デジタル化資料の目次データ、電子雑誌の記事、雑誌記事索引及び目次データベースを合わせ、多くの雑誌について記事名から検索できる可能性がある。そのため、記事名がわかっている場合、雑誌名よりも記事名から検索した方が、検索結果が少なくなるため、検索結果一覧画面から目的の記事を探しやすくなる。また、検索結果が複数ある場合には、インターネット公開資料について優先的に内容を確認すると、掲載箇所をその場で特定できる可能性がある。インターネット公開資料の見分け方については、IV章3(4)(ア)「インターネット公開資料の見分け方」で詳しく紹介する。インターネット公開資料がない場合も、デジタル化資料の目次データや雑誌記事索引等を活用し、掲載箇所を特定できないか、確認していただきたい。

(2) ポイント

調査にあたっては、以下のポイントに留意いただきたい。次項以降、詳細を記載する。

- (ア) 記事名から探す場合は、資料種別を限定せず、記事名を「キーワード」欄に入力して検索する。
- (イ) 雑誌名から探すときは、「出版年」は空欄にする。
- (ウ) 雑誌記事索引とデジコレとでは採録している目次データが異なることがあるので、両方を確認する。

(3) 記事名から探す

資料種別を限定せずに記事名を「キーワード」欄で検索することの利点は、5種類全ての目次データが検索対象となることである。資料種別を「雑誌記事」に限定したり、記事名を「タイトル」欄に入力すると、雑誌記事索引のデータや電子雑誌の記事が対象となり、デジタル化資料や目次データベースの目次データが検索対象とならないため、記事名から検索するには、簡易検索画面または資料

種別を「すべて」に指定した詳細画面で、「キーワード」欄に記事名を入力して検索する（画面 20）。



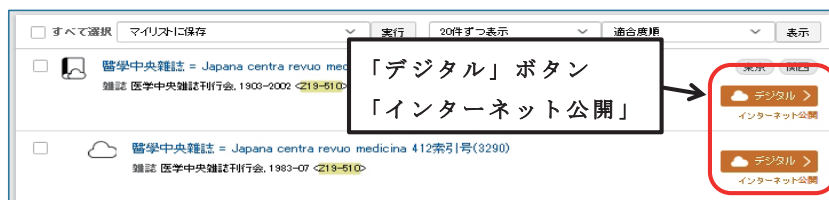
画面 20 詳細検索で資料種別を「すべて」に指定する方法

(4) 検索結果一覧の見方とファセット検索

次に検索結果一覧からインターネット公開資料をどう探るか、またそのような資料がない場合に、どうやって目次データを確認するかを説明する。

(ア) インターネット公開資料の見分け方

画面 21 は雑誌『医学中央雑誌』を検索した検索結果一覧である。このように「デジタル」ボタンの下に「インターネット公開」と記載された資料がインターネット公開資料である（表 2 参照）。「デジタル」ボタンをクリックすると、デジコレに遷移し、画像を閲覧できる。



画面 21 検索結果一覧画面 インターネット公開資料の例

画面 22 は雑誌『現代の図書館』を「キーワード」欄に入力して

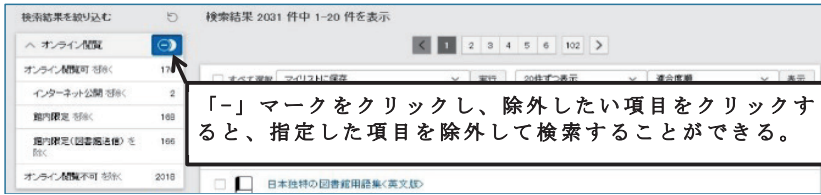
検索した検索結果一覧である。雲と本のアイコンが表示されている書誌が雑誌書誌で、雲のアイコンが表示されている書誌は掲載巻号の書誌（巻号情報）である。「デジタル」ボタンの下には、「国立国会図書館内/図書館送信」と記載されており、この資料は国立国会図書館館内（東京本館、関西館及び国際子ども図書館）か図書館向けデジタル化資料送信サービス（図書館送信）に参加している図書館で閲覧できる。左側の「検索結果を絞り込む」では、検索語を入力することなく、システム側に検索項目を提示させ、その項目を利用して検索を行う「ファセット」検索が可能である。

The screenshot shows a search results page for the keyword '現代の図書館'. The left sidebar contains a '絞り込み' (Filter) section with categories like 'オンライン閲覧' (Online viewing) and '資料種別' (Material type). The main results list shows entries with '本' (Book) and '雲' (Cloud) icons. Callout boxes provide the following information:

- 「検索結果を絞り込む」でファセット検索が可能**: Points to the filter sidebar.
- 「デジタル」ボタン 「国立国会図書館内/図書館送信」**: Points to the digital availability buttons on the right side of the results.
- 本+雲のアイコン (当該誌の場合、雑誌書誌)**: Points to the book and cloud icons on the search results.
- 雲のアイコン (当該誌の場合、掲載巻号の書誌)**: Points to the cloud icon on the search results.
- 目次データがヒットした場合、ヒットした単語の前後が表示される**: Points to the snippet text in the search results.

画面22 雑誌『現代の図書館』キーワード検索結果一覧

なお、国立国会図書館オンラインのファセット検索は特定の項目に絞り込むだけでなく、特定の項目を除外することもできる。除外したい項目が含まれる枠右上の「-」マークをクリックすると枠内の項目が「〇〇を除く」といった表示になるので、除外したい項目名をクリックすれば、改めて検索結果が表示される（画面23）。



画面 23 ファセット検索 (除外時)

(イ) デジコレの目次データの確認方法

画像がインターネット非公開であっても、目次データは確認可能である。掲載巻号の書誌 (巻号情報) のタイトルをクリックすると、書誌詳細画面に遷移する。画面下部で目次データの通覧が可能である (画面 24)。



画面 24 書誌詳細画面 (掲載巻号の書誌 (巻号情報))

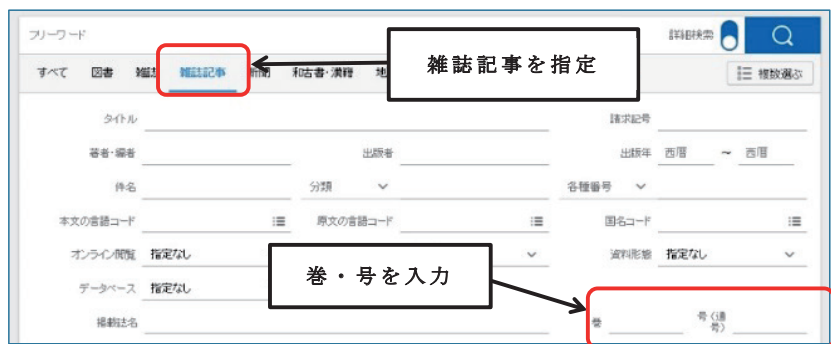
(ウ) 雑誌記事索引の確認方法

「冊子体」(本)のマークのアイコンがあり、資料種別が「雑誌記事」となっている画面は雑誌記事索引の詳細表示画面 (図 4 ④) である (画面 25)。検索結果一覧 (図 4 ②) においてタイトルをクリックして、書誌詳細画面を表示させ、さらに「詳細な書誌情報を表示」ボタンをクリックして書誌詳細画面を確認すれば、雑誌の記事を確認できる (画面 25)。III 章 5「画面遷移」で紹介したように、雑誌書誌⇄掲載巻号の書誌 (巻号情報) ⇄記事書誌間の遷移が可能である。



画面 25 ④雑誌記事 書誌詳細画面

探している雑誌が雑誌記事採録誌であると判明している場合は、詳細検索画面で資料種別を「雑誌記事」に限定して検索すると雑誌記事索引だけを効率よく探すことができる(画面 26)。詳細検索画面で資料種別を「雑誌記事」にした場合は、掲載巻号の指定も可能である。ただし、資料種別を「雑誌記事」にして検索した場合は、デジタル化資料の目次データと目次データベースの目次データは検索できない点には留意が必要である。



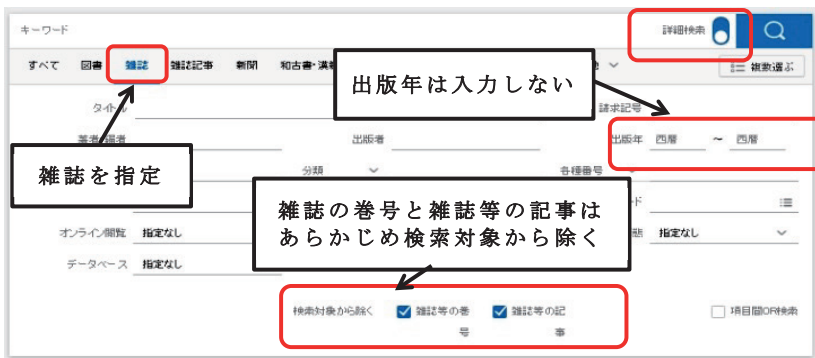
画面 26 詳細検索画面

(5) 雑誌名から探す

(ア) 概要

雑誌名から探す場合のポイントは、詳細検索画面で資料種別を「雑誌」とし、出版年を指定せずに検索することである。国立国会図書館オンラインの「雑誌書誌」の「出版年」は初号と終号の出版年であり、特定の巻号の出版年ではないためである。

雑誌書誌だけを探す場合、画面 27 のように画面下側にある「検索対象から除く」のチェックボックスを使用して、雑誌の巻号と雑誌等の記事はあらかじめ検索対象から除外すると、検索結果が見やすくなる。検索後に検索結果一覧画面の左側のファセットで、「雑誌等の巻号を省略」「雑誌等の記事を省略」をクリックして除外することもできる。



画面 27 雑誌名から探す場合のポイント

(イ) 見分け方

簡易検索画面での検索結果一覧の左端に示された資料種別が「雑誌」であるものが雑誌書誌であるが、上記のとおり詳細検索画面で資料種別を「雑誌」と指定して検索すれば、雑誌のみが検索結果一覧に表示されるため、見分ける必要がなくなる。

(6) 目次データの比較

雑誌記事索引とデジコレとでは採録している目次データが異なる

クできるが、連携先の電子ジャーナルに入力されているとおりに入力しないとヒットしない。例えば連携先の電子ジャーナルの巻が「01」と記録されている場合、データベースリンカーで「1」と入力してもヒットしない。見つからない場合はたどりついたリンク先の電子ジャーナルの検索画面で、巻号等の表記を確認し、条件を入れ直して検索するとよい。

Database Linker
National Diet Library, Japan. 国立国会図書館

今お探しの資料の本文や所蔵情報などを、以下のデータベースで検索できます。

出典: The Wall Street Journal Asia

データベース「ProQuest Central」へのリンク

ベーシックサービス

本文

ProQuest Central で本文を見る

年 巻 号 開始ページ: GO

利用可能期間: 1991年 ~ 2017年
(館内限定)

年や巻号、開始ページを入力して、GO ボタンをクリック

画面 29 国立国会図書館 Database Linker

V. 国立国会図書館サーチとの違い

国立国会図書館が提供する統合的な検索サービスとしては、国立国会図書館オンラインの他に国立国会図書館サーチ³⁰がある。両者の違いは、国立国会図書館サーチでは当館に限らず全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が所有している蔵書や書誌情報の目次データを広く検索できることである。また、国立国会図書館オンラインでは検索できない電子書籍の目次データが検索で

³⁰ 国立国会図書館サーチ <http://iss.ndl.go.jp/>

きる。その一方で目次データベース由来の目次データの一部（複数巻を1つの書誌にまとめて扱った資料の目次データ）については収録されていないため検索できない。

VI. おわりに

国立国会図書館オンラインでは、これまで紹介したように多くの資料の内容情報を検索できる。内容情報を活用し、是非記事掲載箇所の特定に役立てていただきたい。

なお、雑誌の場合は、「誌名」と「巻号（又は発行年月日）」に加え、「論文等のタイトル（又は著者名等、当該雑誌の目次ページから複写箇所が特定できる情報）」か「論文等の掲載ページ」のいずれかが判明していれば、遠隔複写を申し込むことができる。特に「論文等のタイトル」が判明していれば、「論文等の掲載ページ」が不明でも複写は申し込むことができるため、詳細は当館 HP「遠隔複写サービス」³¹を参照していただきたい。また、国立国会図書館オンラインでは複写のために特定の記事や論文の掲載箇所（巻、号等）を調査する「複写のための記事掲載箇所調査」のサービスを提供している。³²

国立国会図書館オンラインの目次データを確認しても複写を希望する論文等の掲載箇所がわからず、遠隔複写サービスを申し込めない場合にご利用いただければ幸いです。

（あべ さちえ 利用者サービス部サービス企画課）

〈参考文献〉

- ① 図書館用語辞典編集委員会 編『最新図書館用語大辞典』柏書房, 2004.4.
- ② 図書館情報学ハンドブック編集委員会 編『図書館情報学ハンドブック』第2版, 丸善, 1999.3.

³¹ <http://www.ndl.go.jp/jp/copy/remote/index.html>

³² 「レファレンス・資料案内」<http://www.ndl.go.jp/use/reference/index.html>